
こんな勇者の旅立ちの物語

碧

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

こんな勇者の旅立ちの物語

【Nコード】

N1417Y

【作者名】

碧

【あらすじ】

問答無用で勇者と断定されたあたし。でも調べたら能力はどれも最低レベル。やっぱりどう考えてもあたしが勇者とかって無理がありませんから~~~~~！

魔力、最低ランク。剣術、敵に当たる前に自分の足に引っかけかきり地面にコケた。戦術、ちんぷんかんぷんため頓珍漢な受け答えしかできなかった。魔術、攻撃系は全滅、小さな火球すら発生させられない。

その他諸々平均かそれ以下。唯一治癒などの補助系魔法のみ伸びるあり。

それが当代勇者とされるあたしフィレアの能力値の全評価だった。

「……………本当に勇者？」

検査を担当した役人の一人が検査結果を片手に首を傾げる。歴代の勇者さまは全項目最高値（計測不能）を叩き出していたのだから当たり前前の反応だ。

「ですよね、可笑しいですよね、あたし、魔王なんて倒せませんよね！というかあたし女です！勇者さまは男の方でしょ！どうしてもあたしが勇者なんですか！」

役人の襟を掴んで前後にぐわぐわ揺らす。有り得ない、ここまでの流れ全部あ~~~~り~~~~え~~~~な~~~~い~~~~！！

畑で収穫していたら何故だかキラキラな美形エルフ神官さんに「勇

者さま」と断定され、問答無用で掻つ攫われた拳句、神殿にぽいと放りこまれ、問答無用でいろんなことを検査された結果がこれですよ!!!

勇者様は外見、知識、技術、記憶全てを持って生まれてこられる存在です。つまりは肉体（でも姿は一緒）だけ変えて生まれてくる同一人物。だから、だから……!!!

「女のあたしが勇者様なわけないじゃないですかあああああああ
あ!!!」

そう、勇者様は男。教会なんかに残っている姿絵には背の高いすりとした優しげな美男子さんじゃないですかあ!!!あたしみたいな農民が勇者つて絶対に絶対に間違いだあ!!!

がくんがくんと激情のまま役人さんを揺らし続けるあたし。役人さんは「うっ!やば、はきそ……」などと呟いていたが当然激昂したあたしの耳には入らない。

「うあああああん!!!」

「じぶっ!ちよ、ほんと、やば………ひいいいいいい!!!」

段々顔色が悪くなっていった役人さんが突然占められた雄鶏のような悲鳴をあげた。あたしの背後を凝視する顔色は青を通りこした白であった。

な、何?

驚いて思わず手を止めたあたしから役人さんは全力で距離を取る。

？を頭に浮かべるあたしの肩を後ろから伸びてきた手ががしりと掴む。

「……………なにをされているのですか？勇者様？」

腰砕けになりそうなほどの美声には残念ながら心当たりがありません。ごくりと息を飲み、覚悟を決めて振り向けば麗しのご尊顔に満面の笑顔を浮かべたエルフさん（諸悪の根源）。

笑顔、なのです。笑顔なんですよ？見ほれるぐらい綺麗な笑顔なんですけど……………。

どうしてでしょうね？と……………つても黒く、恐ろしいものに見えるのですけど……………。

きらきらきらきらきら。

輝かんばかりの天使の笑顔なのにあたしの肩を掴む手はがっちり力が込められていて痛いぐらいだ。

「あ、あああああああ、あの？」

「検査、終わりましたか？」

「はい！…こちらです！…！」

役人さんがバツタのように飛び上がると結果の書かれた書類をエルフさんに手渡す。「それでは！…」とコレ幸いに部屋を退室していった。

おのれ、逃げたな……………！！

恨みがましく役人さんが出て行った扉を睨みつける。すると書類に目を落としたままのエルフさんががしりとあたしの頭を掴むとそのまま自分の方に向けさせる。

ぐき、ぐきって言った！！首、首が痛い！！

エルフさんが書類を読み終わるまでそのままの体勢を維持されました。首が本気で痛い！！

「ふむ」

ようやく頭驚つかみ強制向き変えから解放されたあたしの頭上でそんな声が零れる。

はっ！これは「こんな数値は有り得ない。どうやら間違いのようでしたね。帰っていいですよ」というフラグ！！

期待を込めてエルフさんを見上げれば顎に手をやりなにやら考え込むエルフさん。何を迷うことがありますか。あたしが勇者なんてことは有り得ません。さあ、はやくお役ゴメンの言葉を！！

「予想以上に悪いですね」

そうでしょうそうですね。だってあたし農民だし。補助系の魔法に適性があったことにも驚きだよ。

「戦術などの知識的なものは後でどうにでもなるとはいえ………魔術などの適性値がここまで低いとは特になんで攻撃系がここまで壊滅的に低いんですか？」

知りませんよ。あたしは農民だ。壊す方じゃなくて作る方なんだ。そんな力いらないわ！

「このままでは魔王と戦うことなど夢のまた夢ですね」

嫌です無理です無謀です！いいからとつとあたしを帰して！！

「仕方ありません」

やった~~~~かえれ……。

「予定より少々早いですが」

うん？予定……？

「小づるさい上層部どもを黙らせるよりも聖剣の方を先に取りに行きますか」

「……………ふえ？」

「先に聖剣を目覚めさせればいくらか能力値が低かろうが彼奴らも黙らざるを得ないでしょうしね」

もしも~~~~し？なんか危険な言葉がちらほらでてませんかあ~~~~
~~~~？

嫌な予感ほど当たるといふもので……………。

全力で抵抗するあたしを易々と担ぎ上げ、神殿の最奥に位置する勇者さまにしか入れない聖剣の間に放りこまれた。

え？そこでなにがあつたかつて？

黙秘します。

ただ言えるのはエルフさんと共に無理矢理旅立たされたあたしの腰には立派でしかも喋る剣があつたことだけだ。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1417y/>

---

こんな勇者の旅立ちの物語

2011年11月2日01時28分発行